

1 主な意見

○収蔵管理

- ・収蔵作品のホームページ掲載やデータベース検索機能は必須だと考える。
- ・館内外保管作品の整理・管理状況を伺いたい。

○展覧会

- ・収蔵作品も活用し開催日数を確保することがアーツ前橋の存在理由である。
- ・夏休み会期のターゲットとアンケート集計結果の年齢層にずれがある。
展覧会内容と開催時期に戦略的な視点があったのかどうか。
- ・はじまりの感覚展は、アクセシビリティの課題に向き合う意味で必然的な機会になる。
- ・ニューホライズン展は街なかを回遊させるきっかけになったと思う。さらに恒常的に行われる空間を作ったほうが良いと感じた。
- ・広報は各美術館が苦勞しているテーマである。「東京」ということよりも、「珍しいもの」や「見たことがないもの」に惹かれるようだ。
- ・展覧会の満足度が全体印象に影響を与えている。スタッフ対応も展覧会満足度に影響を与えている。満足度の高い展覧会を目指してほしい。
- ・「アートの街」として大きく変わりつつあると注目されている。

○地域A P

- ・教育普及や地域アートプロジェクトに対する活動が進んでいければといいと願っている。

○教育普及

- ・幼稚園児の写生などの受け入れがあってもよいのではないか。
- ・家庭環境による文化的な格差が生まれてしまうような状況に対し前橋市の施設として何ができるのか検討してほしい。
- ・コロナ禍を経て、生で観たり聴いたりする大切さを教員も子どもたちも感じている。展覧会解説を学芸員にしてもらったり、学校で取り組んでいる図工美術作品展に向けてオンラインでアドバイスをもらったりするなど、手間や費用が軽減できるのではないか。

○広報

- ・「前橋プラザ元気21」で「学校フェスタ」が開催される。子供たちの親や祖父母の来場もあるため展覧会の宣伝に活用したらどうか。
- ・発信力のある店舗にアーツ前橋の「サポート店」になってもらう取り組みがあれば、街の回遊、街のみんなで盛上げられると思う。

○運営

- ・正規雇用の学芸員を増やすことを検討してほしい。
- ・常勤学芸員が必要だと思うので人員要求を強くしていただきたい。長期的展望、教育的視点をもって美術館と繋がる人材育成をしていくことが大事である。
- ・予算削減のため休館日を増やす選択にならないよう気を付けたほうが良い。

○その他

- ・事業決算の内訳が判断できる評議会資料を検討して欲しい。
- ・「美術館」という名前を出す時期にきているのではないか。

2 対応

1) 収蔵管理

- ・令和6年度の作業・・・資料3－6

2) 展覧会

- ・令和6年度の事業・・・資料1
- ・令和7年度の事業・・・資料4（4期の展覧会）

3) 地域A P

- ・令和6年度の事業・・・資料1
- ・令和7年度の事業・・・資料4（2本の地域アートプロジェクト）

4) 教育普及

- ・小中学校、保育園、高等教育機関からの視察・見学
- ・教育委員会「多様な学びの日」
無料デーの設定、生涯学習課による見学イベントの設定

5) 広報

- ・SNS，WEB等、広報改善の状況・・・資料3－4、3－5
- ・学校フェスタ、卒業制作展等、チラシの配架
- ・元気21・中央公民館スペースでのアーツ前橋告知（POP設置）
- ・周辺店舗に対し、アーツ前橋サポーターによるチラシ配布

6) 運営、その他

- ・学芸員の採用状況・・・資料3－2、3－3

<意見交換MEMO>